

WOLFVISION[®]

取扱説明書
VZ-C6



安全に関する注意事項



注意!

製品内部は高電圧のため
感電する恐れがあります



下記の注意事項に従ってください:

注意! 本製品の取付に関しては、メーカーから認定された人が取扱説明書に従って行ってください。また、お客様の装置・設備に適用される各国関連法規および規格を遵守の上ご使用ください。
本製品を使用する場合は、ラベルの指示通りに必ず正しい電圧でご使用ください。
本製品が高い熱や湿気にさらされないように気をつけてください。
本製品に過度の衝撃を与えないようにご注意ください。
本製品の落下防止のため、安全ロープを使用してください。
換気をよくして、本体が十分に冷却されるようにしてください。(本体上部の換気スロット)
何らかの異常な症状(雑音、臭い、煙など)がある場合は、直ちに電源ケーブルを抜きWolfvision製品取扱店までご連絡ください。
破損した電源アダプターやケーブルはショートや感電の原因になりますので使用しないでください。
危険を避けるため、本製品を改造したり、カバーパネルが所定の位置に固定されていない状態で操作しないでください。
本製品が水、金属あるいは引火性の物質に触れないようにご注意ください。
本製品を設置する場合、強い磁気や電流が流れている場所を避けてください。
放射性物質のある環境も避けてください。放射性物質はモニター画像の歪みやカメラセンサーへの損傷の原因になります。
濡れた手で電源ソケットからプラグを抜かないでください。
本製品を長時間使用しない場合は、電源ケーブルを抜いてください。

LEDライトに関する注意(EN62471) :



LEDライトを凝視しないでください!
LEDライトシステムを改造しないでください。
光を光学機器を使って見ないでください!

Declaration of Conformity

We, the company WolfVision GmbH, Oberes Ried 14, A-6833 Klaus, refer to the self-declaration of the company TP-Link, which is shown on the next page. Our products operate this wireless adapter within the country-specific standards, and hereby comply with all technical regulations.

Klaus, 17. Juli 2013

WolfVision GmbH

A handwritten signature in black ink, appearing to read "Martin Wolf".

Martin Wolf

承認



FCC 規則:

本製品は FCC（米国連邦通信委員会）規則Part15に準拠しています。
操作は、次の2つの条件を前提にします。

- (1) 本機は、有害な電波障害を引き起こすとは限らないこと。
- (2) 本機は、誤動作を生じうる干渉を含むあらゆる受信障害を許容するものであること。

注意:

本製品は、FCC（米国連邦通信委員会）規則Part15 ClassAデジタル機器に関する規定要件に基づいて所定の試験が実施され、これに準拠しています。

これらの規定要件は、本製品を住宅地域で操作する際に有害な干渉から適切に保護するために設けられています。
本製品は、高周波エネルギーを発生し使用するもので、これを放射する場合があります。

Information:

インテンショナルラジエータあるいはアンインテンショナルラジエータの取扱説明書は、許可なく本製品に変更や修正を加えた場合には、ユーザーに提供されている本製品の使用权が無効になることがあると警告しています。

本製品は、EMC指令と電気機器指令に適合しています。

本製品は、UL 60950, CSA 22.22-60950規格に基づいた試験・評価を実施しています。

本製品は、CB-Schemeに基づいた試験・評価を実施しています。

本製品は、PCT-Schemeに基づいた試験・評価を実施しています。

国際特許

EU 0 362 737

DE P58907684.1-08

CN 89107780.4

JP 1725033

KR 128059

US 5,027,219

EU 0 987 874

JP 3 544 900

AU 765617

CN ZL99118847.0

など

著作権情報

Copyright © by WolfVision. All rights reserved.

WolfVision、Wofu Vision および沃福視汎は、WolfVision Holding AG, Austria の登録商標です。

WolfVisionの書面による事前の許可なしには、いかなる方法においてもこの取扱説明書の複写、複製、転載を禁じます。購買者の保管（バックアップ）目的のみ許可されています。

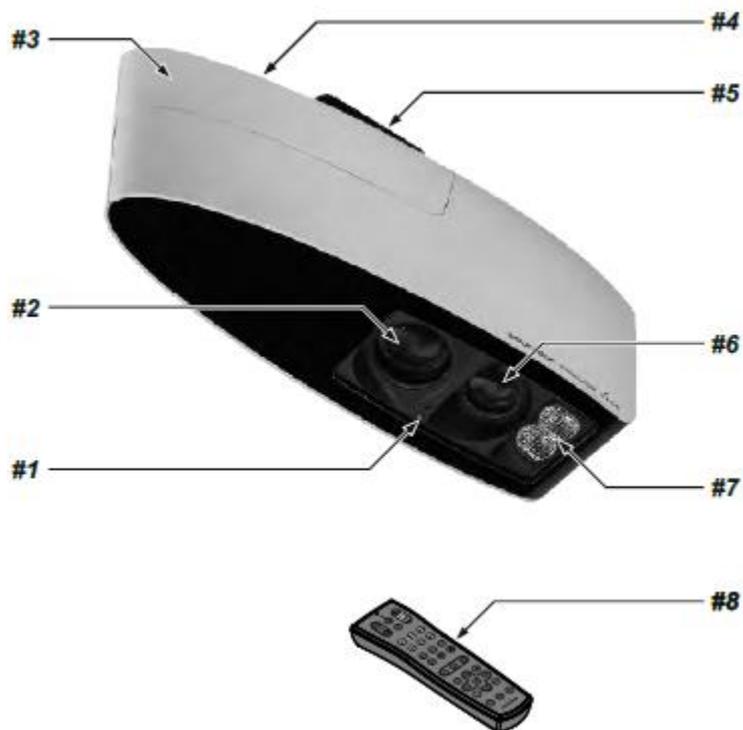
WolfVision 社は、改善のため製品仕様を予告なく変更する権利を有します。

本書の内容は予告なく変更されることがあります。

免責事項：WolfVision 社は、技術上または編集上の不完全な記載または誤植についての責任を負いかねますのでご了承ください。

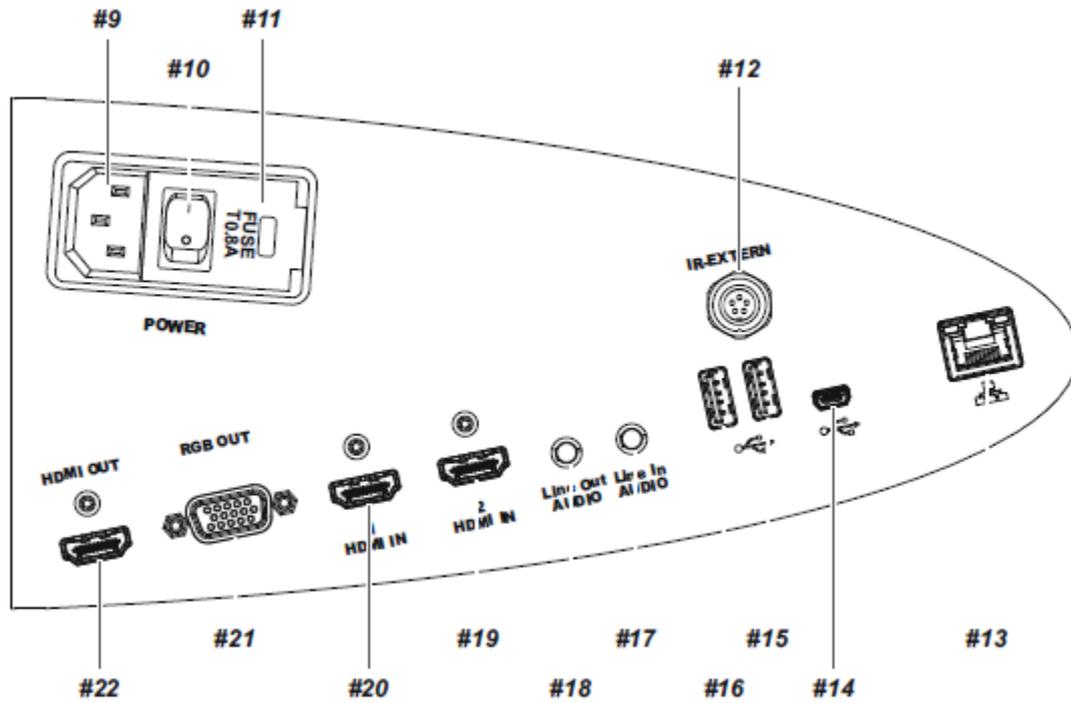
この製品は EU/オーストリア製です。

ビジュアライザーの構成



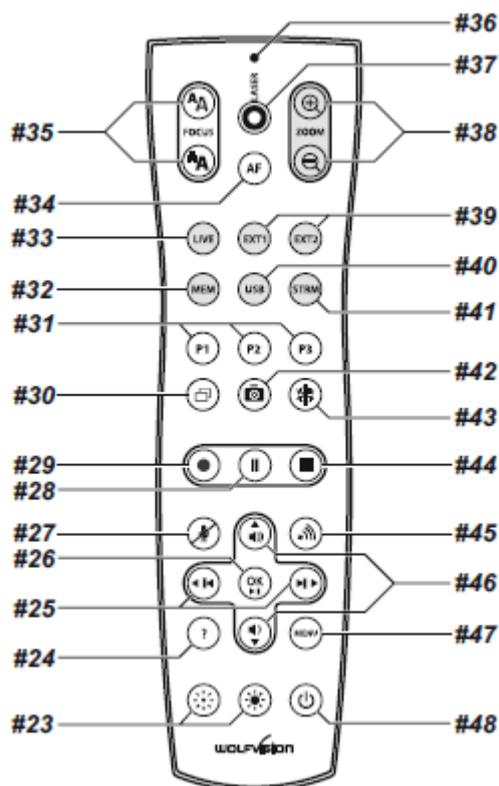
- #1 電源表示LED (9ページ参照)、赤外線受光部 (20ページ参照)
- #2 カメラレンズ
- #3 ケーブル及びceiling mountのカバー (注意して引上げてください)
- #4 コネクター類及びメインスイッチ (カバー裏、次ページ参照)
- #5 天井設置アダプター (ビジュアライザー取付用 ※取付けマニュアルを参照)
- #6 同期ライト用レンズ
- #7 環境照明 (11ページ参照)
- #8 赤外線リモートコントローラー (7、8、23ページ参照)

コネクタとメインスイッチ (#4)



- #9 電源ケーブルコネクタ (100V~240VAC対応)
- #10 主電源スイッチ (9ページ参照)
- #11 ヒューズ (23ページ参照)
- #12 外部赤外線入力アダプター (20ページ参照)
- #13 LANポート 10/100 TBase またはPoE+ (17、21、22ページ参照)
- #14 USBポート・ホスト (コンピュータ用) (21ページ参照)
- #15 USBポート・クライアント (外部ストレージ用) (14、15、21ページ参照)
- #16 USBポート・クライアント (WLAN Dongle) (17、22ページ参照)
- #17 音声ライン入力 音声信号入力 (20ページ参照)
- #18 音声ライン出力 音声信号出力 (20ページ参照)
- #19 HDMI入力2 HDMI信号外部入力 (20ページ参照)
- #20 HDMI入力1 HDMI信号外部入力 (20ページ参照)
- #21 RGB出力端子 (15ピン) (19ページ参照)
- #22 HDMI出力端子 (19ページ参照)

赤外線リモートコントローラー(#8)



赤外線コードの変更

同室内で複数台のビジュアライザーを使用する場合、個別に制御するため異なる赤外線コードを設定する必要があります。

ビジュアライザーとリモートコントローラの赤外線コードは一致していなければなりません。

赤外線コードの変更は、オンスクリーンメニューに入り“Advanced Settings/Miscellaneous Settings” を選択し、“IR Code”をA,B,C,Dに設定します。(Aはデフォルト値)。リモコンの赤外線コードを変更するには、PRESET1とPRESET2 (#31) , ZOOM TELE (#38) キーを同時に押します。

これらのキーの組み合わせで押すたびに、コードはAからB、C、DそしてA...と切替わります。

初期値のコードAに戻すには、PRESET1、PRESET2、Zoom Wideキーを同時に押してください。

赤外線リモートコントローラーのLEDの点滅の回数で選択されたコードを確認できます。(1回点滅するとコードはA、2回はB、3回はC、4回はDとなります。)

赤外線リモートコントロールキー

23 マニュアル露出調整キー（明るさ調整）

映像の明るさを変更します。（12ページ参照）

24 ? HELP / RESETキー（オンスクリーンメニュー用（二重の機能））

Infoスクリーンが表示され、現在のレコーディングやオーディオの状態を見ることが出来ます。（13ページ参照）
オンスクリーンメニューを表示している時にHELPキーを押すことによりオンスクリーンヘルプを見ることが出来ます。このキーを2秒間押すと選択されたメニュー項目がリセットされます。（18ページ参照）

25 Backward・Forwardキー / メニュー選択キー（ダブル機能）

MEMとUSBモードが表示されている時、保存された画像間を移動し選択できます。（15ページ参照）

オンスクリーンメニューが表示されている時、メニュー項目間を移動し選択できます。（18ページ参照）

26 確定（OK）キー

オンスクリーンメニュー（18ページ参照）、MEM及びUSBモード（15ページ参照）が表示されている時にENTERキーとして使用します。

27 音声ミュートキー

オーディオ入力をミュートします。

28 ビデオ録画の一時停止キー

ビデオ録画を一時停止します。再開するには再度クリックしてください。（14ページ参照）

29 ビデオ録画キー

ビデオ録画を開始します。（14ページ参照）。

30 PiPキー

ライブ画像とフリーズ画像を比較します。（16ページ参照）

31 PRESETキー（プログラム可能な設定）

PRESETキーのいずれかを2秒以上押すと現在の設定条件を保存します。設定条件を呼び出すには、呼び出したいPRESETキーを素早く押してください。（12ページ参照）

32 MEMキー

内蔵メモリの画像と動画を表示します。（15ページ参照）

33 LIVEキー

カメラのライブ画像を表示します。（15ページ参照）

34 オートフォーカス（AF）キー

オートフォーカスのオンとオフを切り換えます（12ページ参照）

35 マニュアルフォーカスキー

画像のフォーカスを調整します。（12ページ参照）

36 LASERポインター指示LED

（日本仕様ではレーザーの機能はありません）

37 LASERポインタキー

（日本仕様ではレーザーの機能はありません）

38 ZOOMキー

撮影領域のサイズを変更します。

39 EXT1とEXT2キー

外部からの入力映像を表示します。再度ライブ画像を表示するには、LIVEキーを使用します。（16ページ参照）

40 USBキー

USBメモリの画像や動画を表示します。（15ページ参照）

41 STRMキー

受信したストリームの信号を表示します。（17ページ参照）

42 スナップショットキー

スナップショット機能が使用できます。（14ページ参照）

43 FREEZEキー

現在のイメージを静止させます。（12ページ参照）

44 ビデオ録画停止キー

ビデオ録画を停止します。（14ページ参照）

45 Streamキー

ネットワーク上のストリーミングを開始/停止します。（17ページ参照）

46 オーディオボリュームキー / メニュー選択キー（ダブル機能）

音声出力のボリュームを増/減させます。

オンスクリーンメニュー起動時操作します（18ページ参照）

47 MENUキー

オンスクリーンメニューが表示されます。（18ページ参照）

48 POWERキー

本体の電源ON/OFFを行います。本体に電源が入るとビジュアルライザーはパワーオンプリセットが作動します。

前準備として

1. パワーケーブルを本体と接続してプラグを差し込んでください。（#9）
2. 表示するモニターやプロジェクターをビジュアライザーの出力端子に接続してください。
正しい出力モードを選択しているかについては19ページを参照してください！
3. 本体の主電源スイッチ（#10）を“|”側に入れてください。電源表示のLEDが点灯します。
“赤”はスタンバイ状態、“緑”は電源が完全に立ち上がった状態です。
4. デフォルトでは、主電源を入れるとビジュアライザーが立ち上がります。
デフォルト設定を変更する場合、リモートコントローラーのPOWERキー（#48）を押してください。
5. ビジュアライザーのパワーオン・プリセットが作動します。

パワーオン・プリセット

自動的にズームが中間ズームの位置に移動し、作業エリアにフォーカスを合わせ、オートアイリスを実行します。
（撮影範囲はビジュアライザーの取付位置の高さで変わります。）

電源表示のLEDが緑色に点灯したら、ビジュアライザーでの作業を開始することができます。電源が入った後、またPOWERキーを押した後の設定は、オンスクリーンメニューで変更することができます。（18ページを参照）

初めてのビジュアライザー操作 - クイック・セットアップ・ガイド

初めてビジュアライザーのスイッチを入れると、自動的にオンスクリーンメニューが立ち上がり、Quick Setup Guideが始まります。矢印キーでメニューを操作してください。

設定について：

言語

オンスクリーンメニューで言語を選択できます。

Height Adjustment(高さ調整)

ビジュアライザーと作業エリア間の距離が変わらない限り、高さ調整をするのは一度だけです。

通常のインストールの場合、“Auto Height Adjustment（自動高さ調整）”機能の使用をお勧めします。（高さ調整用テストチャートが必要です）

調整がうまくいかない場合（例えば、環境照明の明るさ等）、“Manual Height Adjustment（手動高さ調整）”を使用してください。

高さ調整は繰り返しできます。オンスクリーンメニューを立ち上げ、“Advanced Settings / Height Adjustment”を選択してください。

イーサネット設定

IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイIPアドレスはDHCPサーバーにて自動で設定でき、もしくは手動でも設定できます。

時間設定

ビジュアライザーは、内部時計または外部タイムサーバーの使用が可能です。（有効なタイムサーバー、IPアドレス、インターネット接続が必要となります）

音声設定

Line-Inはデフォルトではオフになっていますが、必要なときに起動することができます。

注：高さ調整は、ビジュアライザーと作業テーブル間の距離を変更した場合、再度行う必要があります！ - 詳細はインストールマニュアルを参照してください。

インストール

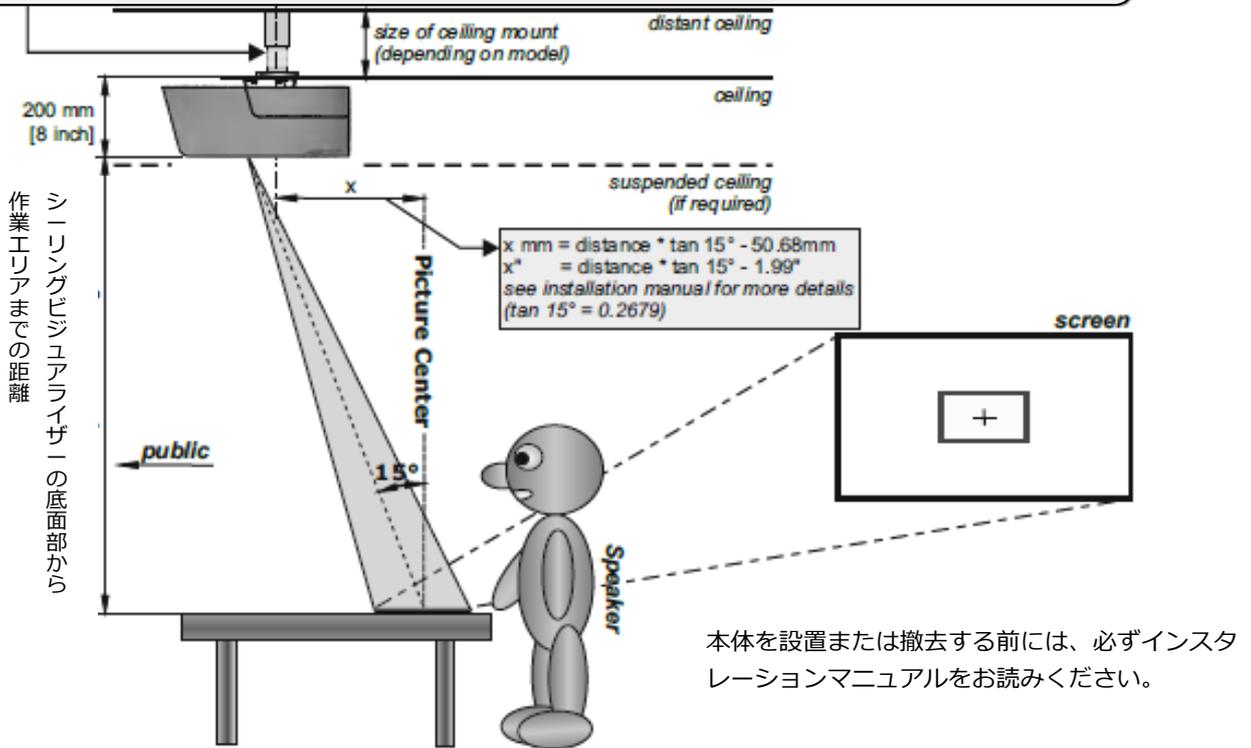
本体を天井に取り付ける前に、インストールマニュアルをご覧ください。

ユニットが撮影できる最小、最大画像のサイズは変動します。

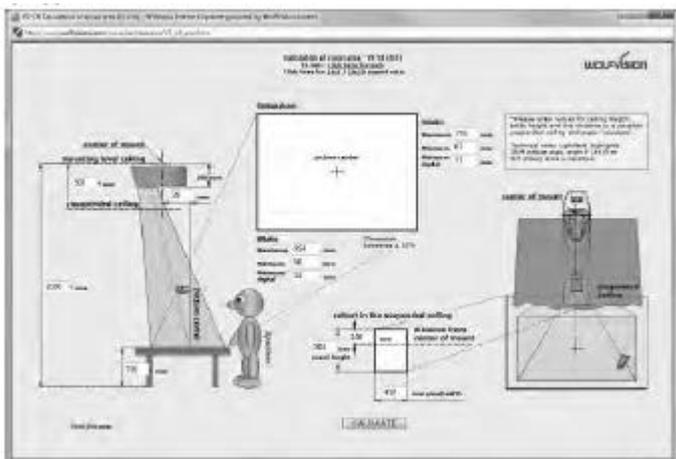
これはビジュアライザーの底面部と作業エリアとの距離によります。

インストールマニュアルの表は、撮影範囲と取り付け位置の高さとの関係を示しています：

極端に高さのある部屋では、撮影できる最小の画像が十分に小さくならない場合があります。このような場合には、Ceiling mountやプロジェクターリフトを使用しビジュアライザーを天井から離して吊るすことができます。



以下のWolfVisionホームページ上の計算プログラムを利用し、正確な位置と撮影範囲を計算してください：



フォーカスの位置はサイズに影響するため、実際にはこれらの数字は若干変動します。

モニターやプロジェクターのマスキングも考慮しなければなりません。（画像の端をカットする場合があります。）

理論上は2400mm（およそ94"）以上の距離でも投影は可能ですが、撮影範囲が大きくなりすぎるとライトの光量が弱くなります。

<http://www.wolfvision.com/japanese/index.php/installation>

同期ライトフィールド

ビジュアライザーのトップライトを使う場合（デフォルト）、同期ライトフィールドは作業エリア上の撮影範囲を示します。

このライトフィールドの位置合わせは、作業エリア上で行われます。カメラ及びライトプロジェクターは傾斜して取付けられているため、ビジュアライザーと被写体の距離が短くなる場合（高さのある物を撮影する等）、ライトフィールドは撮影範囲の上部に移動します。

この時、ライトフィールドは撮影範囲を正しく示していません。

この場合は、PRESETキー（LIGHT）を押してビジュアライザーの光のスイッチを切り、部屋の照明で作業してください。

環境照明

作業場所をより明るくするために、ビジュアライザーは環境照明を備えています。

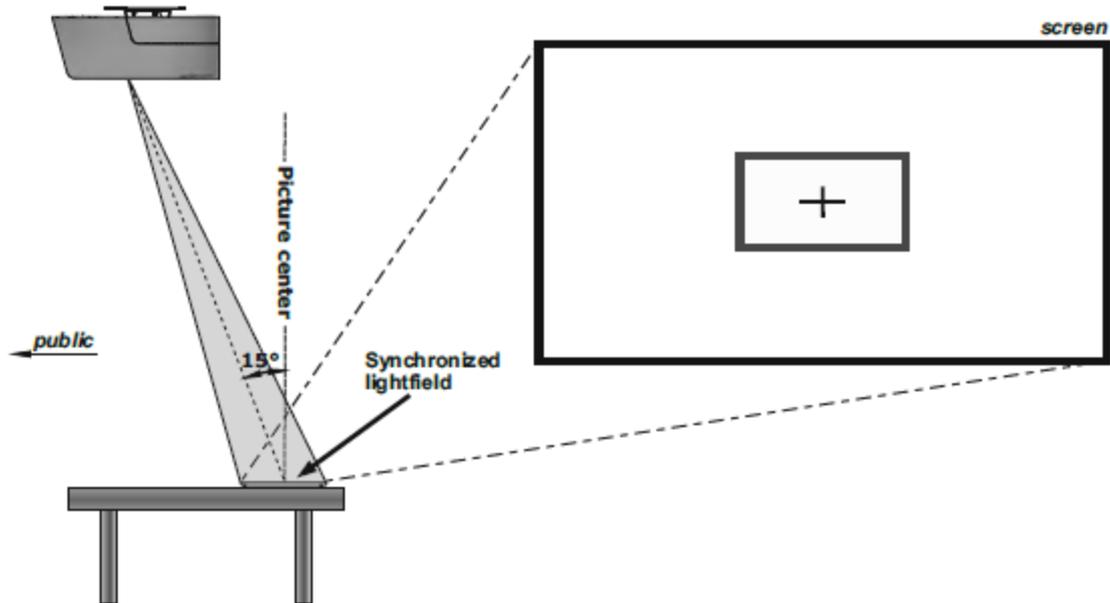
環境照明は、撮影範囲を正確に示しません。

デフォルトでは、ズームが9倍になった時に環境照明のスイッチがオフになります。

環境照明の設定は、オンスクリーンメニューで変更することができます。（18ページ参照）

作業エリアの撮影範囲

1. 作業エリア上の同期ライトフィールドは、撮影範囲を示します。
照らされた範囲に被写体を置いてください。
注) 技術的な理由によりライトフィールドの範囲はカメラの撮影範囲よりわずかに大きくなります。
2. 拡大する場合は、ZOOMキー（#38）を選択してください。
3. 画像の焦点がずれている場合、FOCUSキー（#35）で調節してください。



フォーカス / オートフォーカス

ビジュアルライザーに電源を入れると、自動的に被写体に焦点が合います。何も書かれていないペーパーなどコントラストの低い被写体はフォーカス調整が難しくなります。オートフォーカスが作動しない場合は、被写体を少しだけ動かしてください。特殊な使い方の場合、ON/OFFスイッチ(#34)を使ってオートフォーカスを解除することができます。マニュアル FOCUSキー(#35)を押すと、自動的にオートフォーカスが解除されます。

光学ズーム/デジタルズーム

ビジュアルライザーは 12 倍光学ズームです。4 倍デジタルズームにより 48 倍ズームになります。撮影範囲は、ビジュアルライザーと被写体との距離によって変わります。ズームイン時、光学ズーム終了位置で止まり、さらにズームインする場合デジタルズームが自動的に起動します。デジタルズーム使用時、画像の解像度が落ちることをご了承ください。デジタルズームモードの設定はオンスクリーンメニューで変更できます。(18 ページ参照)

光学ズーム拡張 (ワイド)

ズームアウト時の光学ズームは、デフォルトでズーム比9倍に制限されています。さらにズームアウトする場合、ズームは光学ズーム位置9倍で止まり、さらにズームアウトするとズーム拡張が自動的に起動し、環境照明のスイッチがオフになります。光学ズーム拡張と環境照明の設定は、オンスクリーンメニューで変更することができます。(18ページ参照)

オート露出 / マニュアル露出

ビジュアルライザーにはオート露出機構が備えられており、撮影映像の明るさを自動的に調整します。EXPOSUREキー (#23)を使うことによって、手動で画像を明るくまたは暗く調整できます。標準の標準のオート露出レベル (画像の明るさ) はオンスクリーンメニューで設定することができます。撮影領域に明るいスポットがある場合、オンスクリーンメニューでバックライト補正機能をONにすることができます。(P18、およびオンスクリーンヘルプ参照)

プリセット機能

ビジュアルライザーは、現在の設定をプリセットとして保存でき、リモコン上のそれぞれのPRESET キー(#31)で、設定を呼び出すことができます。

PRESETキーに設定を保存するには、それぞれの機能を必要に応じて調整したのち、リモコンの任意のPRESETキーを2秒間以上押し続けます。プリセットが保存されるとスクリーン上にメッセージが表示されます。さらに、オンスクリーンメニューで最大3つまでHeight Adjustment(高さ調整)設定をプリセットに保存できます。「Set Preset x Height」行を選択し、初期設定の手順に従って対象レベルの調整を実行してください。(スクリーン上の指示に従ってください) オンスクリーンメニューのstatus area/Preset Controlは、保存されたプリセットの現在の状態を表示します。

DISABLED (無効)	高さの設定不可
SET (セット)	特定の高さレベルの設定
DEFAULT (デフォルト)	デフォルト高さレベル (初期設定)

上記の方法で、ズーム、フォーカス、露出等の現在の設定がすべてプリセットとして保存されます。これとは別に「Light ON/OFF」「ネガ・ポジ反転」「ネガ・ブルー反転」「白黒」「ホワイトバランス」「フリーズ」などといった特定の機能をオンスクリーンメニューでPRESETキーに予め設定することが可能です。(18ページ参照)

FREEZE

現在撮影している映像を FREEZE キー (#43) で固定表示することができます。観衆が静止画像を見ている間、次の資料を準備する間に用いることもできます。

Info Screen (ステータス)

リモートコントロールキーの?HELP キー(#24)を押すことによってインフォスクリーンが表示されます。録画可能な時間、録画ステータス、オーディオ設定等が表示されます。インフォスクリーンは、2、3秒後に自動的に消えます。

ステータスアイコン

表示スクリーン左下隅のそれぞれのアイコンは、ストリーミング、レコーディングとマイクのステータスを表示しています。

ホワイトバランス調整

正しい色を再現するには、正確なホワイトバランス調整が重要となります。ライトの状態が変わるたびにビジュアライザーは最適な色の再現のため、カメラのホワイトバランスを調整しなければなりません。ライトの状態(色温度)は、例えばビジュアライザー本体のライトから外付けのライトボックスに変わったときや室内のライトが ON/OFF したときなどで変化します。

ビジュアライザーは「Auto Tracking(自動調整モード)」に標準設定されていますので、このモードではホワイトバランスは常に自動調整されるようになっています。

正確なホワイトバランス調整のためには、映像の 10%以上が白である必要があります。より正確なホワイトバランスを調整するには、「ワンプッシュ」ホワイトバランス機能を使用します。この場合、PRESET キー(WHITE BALANCE)を押します。ホワイトバランスが記憶されるとスクリーン上にメッセージが表示されます。「ワンプッシュ」ホワイトバランスに設定されると「Auto Tracking」モードは自動的に解除されます。(本体の電源を切り、再び電源を入れると「Auto Tracking」モードに戻ります。)

通常、ホワイトバランスのマニュアル調整は必要ありませんが、スクリーン上の映像の色が実際と違って見える場合、マニュアル(ワンプッシュ)で調整してください。

ワンプッシュホワイトバランスを実行するヒント:

トップライト使用時(もしくはルームライト):

撮影した映像のすべてが白くなるまで白い被写体(例:白い紙など)にズームしてから PRESET キー(WHITE BALANCE)を押してください。

ライトボックス(オプション)上の透明被写体:

ビジュアライザーの PRESET キー(LIGHT)を押しライトを OFF にして、ライトボックスを ON にします。ライトボックスに何も載せないでモニター映像が白だけになるように最少撮影サイズまでズームし、PRESET キー(WHITE BALANCE)を押します。

ライトボックス(オプション)上のX線フィルム:

ビジュアライザーの PRESET キー(LIGHT)を押しライトを OFF にして、ライトボックスを ON にします。X線フィルムをライトボックスに載せてX線フィルムの全体が撮影できるまでズームアウトし PRESET キー(WHITE BALANCE)を押します。

注意事項: 誤った色彩は接続されたプロジェクターまたはモニターの間違った色の設定によることがあります。最初にビジュアライザーのホワイトバランスの調整をすることをお勧めします。もし、その結果がまだ満足できないものであれば、プロジェクターまたはモニターをチェックしてください。

スペシャリスト向け:

「Auto Tracking」「One Push」「Manual」ホワイトバランスの各モードは、オンスクリーンメニューで切り替えることができます。(18ページ参照)。ライトボックスを使用してネガ透過原稿を撮影する場合は、ネガフィルムの空欄部分(映像の黒い部分)でホワイトバランスを調整してください。

ライトボックス(オプション)

ライトボックスを使用時、ビジュアライザーのトップライトは PRESET キー(LIGHT)でスイッチを切らなければなりません。底面部のライトを使用することで、トップライトの同期ライトフィールドが、内蔵カメラによる撮影範囲をマーキングできないという欠点があります。

ビジュアライザーの推奨ライトボックスは、WolfVision製ライトボックスLB-38です。

スナップショット - 静止画保存

SNAPSHOT キー（#42）を押すことによって表示中の画像が、内蔵メモリに保存されます。

内蔵メモリ（外部ストレージデバイスを接続されていない場合）

静止画と動画は、ビジュアルライザーの 8GB 内蔵メモリに保存されます。

ビジュアルライザーの MEM モードで静止画（または動画）を見ることができます。

すべての画像は、日付とタイムスタンプ付き JPG フォーマットで保存されます。（WV_JJJJMMDD_hhmmss）

例：WV_20130919_024735.jpg

オンスクリーンメッセージでファイル名を表示します。

外部ストレージデバイスが接続されている状態

静止画と動画は、外部ストレージデバイスに保存されます。

利用できる容量は、デバイスに依存します。

保存された全ての画像は、日付とタイムスタンプ付きの連続した番号が割り当てられ、JPG フォーマットで保存されます。（WVxxxxxx_JJJJMMDD_hhmmss） 例：WV_20130919_024735.jpg

オンスクリーンメッセージでファイル名を表示します。

画像（または動画）はビジュアルライザーの USB モードもしくはソフトウェアがインストールされているコンピュータで見ることができます。

USBの機能設定は、オンスクリーンメニュー(Advanced Settings → USB Stick Settings)で、デフォルトの画像フォルダ名(document directory)やファイル名("WV"に連続して番号割り当て)を変更することができます。

ビデオ-ビデオクリップの録画

ビジュアルライザーは、音声を含むコーデック H.264 マルチメディアコンテナフォーマットのビデオ録画に対応しています。（ビデオファイル拡張子は、*.avi です）

ビデオソース（カメラ・ライブ画像、外部 HDMI またはメモリー）を選択し、音声ソース（HDMI-In、Line-In）をオンスクリーンメニューで選択し、REC キー（#29）で録画を始めてください。

録画の中断、再開は PAUSE キー（#28）、終了は STOP キー（#44）で可能です。

Audio VOLUME キー（#46）を使うことでボリューム調整し、MUTE キー（#27）で音声を消します。

ヒント：

表示スクリーン左下隅のそれぞれのアイコンは、実行中の録画機能を示します。

ビジュアルライザーは、レコーディングを開始すると自動的にコーデック H.264 を起動します。（Advanced Settings → Streaming → Record Settings）

動画ファイルは、本体メモリに、または接続されている時は USB メモリに保存されます。

全てのファイルは、日付とタイムスタンプ付きで保存されます。（WV_JJJJMMDD_hhmmss）

例：WV_20130919_024735.avi

録画終了後、オンスクリーンメッセージで録画ファイル名を表示します。

ヒント：？キー（#24）を押すことで、レコーディング可能時間や音声セッティングなど現在の録画状態がスクリーン上に表示されます。

内蔵メモリ（外部ストレージデバイスを接続されていない場合）

静止画と動画は、ビジュアルライザーの 8GB 内蔵メモリに保存されます。

ビジュアルライザーの MEM モードで動画（または静止画）を見ることができます。

外部ストレージデバイスが接続されている状態

静止画と動画は、外部ストレージデバイスに保存されます。

利用できる容量は、デバイスに依存します。

動画（または画像）はビジュアルライザーの USB モードもしくはソフトウェアがインストールされているコンピュータで見ることができます。

デフォルトのフォルダ(document directory)は、オンスクリーンメニュー(Advanced Settings → USB Stick Settings)で変更することができます。

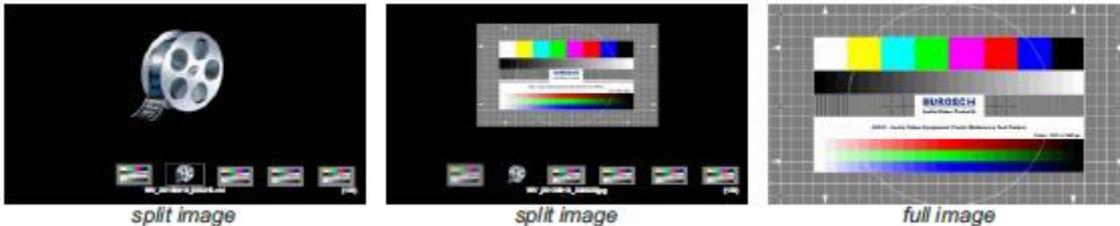
注意事項：ビデオファイルは、REC キーを押すたびに保存されます。ファイル・サイズが 4GB を超える場合、自動的に新しいファイルが作成されます。

MEMモード

MEMモードを起動するには、MEMキー（#32）を押してください。分割画面が保存された画像とともに表示されます。同時に画像情報を示すステータスラインが画面底部に表示されます。

LIVEキー（#33）を押すと撮影中のライブ画像へ一旦戻ります。この時、MEMモード内は直近に表示された画像のままの状態が保持されます。継続するには、再度MEMキーを押します。

表示された分割画面のうちの一つを選び大きく表示するには、Backward/Forwardキー（#25）で画像選択し確定キー（#26）を押して下さい。同様にBackward/Forwardキーを使って、前/次の画像を表示して下さい。分割画面に戻る場合は、確定キーを押して下さい。



MENUキーを使って画像または動画を削除してください。保存された画像とビデオ・クリップは、オンスクリーンメニューのMEMモードで、USBスティックへコピーすることができます。

USBモード

USBモードを起動するにはUSBキーを押して下さい（#40）。分割画面が利用可能なフォルダと画像とともに表示されます。同時に画像の情報を示すステータスラインが画面底部に表示されます。

LIVEキー（#33）を押すと撮影中のライブ画像へ一旦戻ります。この時、USBモード内は直近に表示された画像のままの状態が保持されます。継続するには、再度USBキーを押します。

表示された分割画面のうちの一つを選び大きく表示するには、Backward/Forwardキー（#25）で画像選択し確定キー（#26）を押して確認して下さい。同様にBackward/Forwardキーを使って、前/次の画像を表示して下さい。分割画面に戻る場合は、確定キーを押して下さい。



MENUキーを使って画像または動画を削除してください。

さらにコンピュータを使えば、USBストレージデバイスのフォルダの作成・消去、画像のフォルダから別のフォルダへの移動、画像や動画の消去やUSBストレージデバイスをフォーマットするなどの作業ができます。

USBストレージデバイスをフォーマットすると、全てのデータが消去されますのでご注意ください。

サポートしているファイルシステムはFAT16とFAT32です。

サポートしている画像ファイル形式はJPGです。

サポートしているビデオファイル形式は、コーデックH.264によるAVIコンテナです。

（ビデオファイル拡張子は、*.aviです）

ビルトイン・デジタルスケーラー (HDMI-In、USB スティック、vConnect)

ビジュアルライザーには外部入力をビジュアルライザーの映像として同じモードで表示できるようデジタルイメージスケーラーが組み込まれています。(例えばビジュアルライザーが、プロジェクターに対して 1080p (Full HD) で出力設定されていて、コンピュータが XGA で出力する場合、ビジュアルライザーのデジタルスケーラーはコンピュータの XGA イメージを 1080p に変換します。その結果、ビジュアルライザーのライブ画像とコンピュータとを切り替える時、プロジェクターの入力モードの調整は必要ありません) さらに、接続された USB スティック内の画像もビジュアルライザーの現在の出力モードに自動的に調整されます。ビジュアルライザーの出力解像度はオンスクリーンメニューで調整することができます。(18 ページ参照)

シームレススイッチ

ビジュアルライザーにはシームレススイッチが備えられています。これにより、ビジュアルライザーのライブ画像、外部入力画像、メモリー画像 (内部メモリや USB スティック) あるいは vConnect のストリーミング画像とを切替える際にもシームレスに切替え (フェードオーバー等、ディゾルブ効果) することができます。この動作は、オンスクリーンメニューで変更できます。(18 ページ参照)

Picture in picture (PiP) /ライブとフリーズ映像の比較



Picture in picture モードは二つの異なる画像を同じ画面に同時に表示することが出来る機能です。Picture in picture モードを起動するには PiP キー (#30) を押して下さい。現在表示している画像 (外部信号、画像メモリ等) は画面左下隅に、ライブ画像は画面右上に大きく表示されます。ライブ画像の内容は、例えば保存されている画像メモリを呼び出して変更することができます。



HDMI 入力、画像メモリおよびライブ画像の PiP 画像比較ができます。小さい方の画面は、HDMI 入力からの信号を表示する時を除いて、フリーズされています。PiP モードの動作は、オンスクリーンメニューの Output Settings で変更できます。(18 ページ参照)

ストリーミング配信

ビジュアライザーは、ネットワーク上で音声およびビデオコンテンツをブロードキャスト可能な内蔵ストリーミングサーバー機能を備えています。

イーサネット接続（有線もしくはワイヤレス）の準備をし、オンスクリーンメニュー内の Advanced Settings / Ethernet Settings を選択してください。ここで Destination に IP Address（マルチキャストを選択する場合：225.0.0.0~238.255.255.255 間で割り当てます。224.x.x.x と 239.x.x.x は予約済みで使用できません）、ポート、モード、解像度、フレームレートとストリーミングのフォーマットを割り当てることができます。（RTP H264 まで）

Auto モード設定時は、ビジュアライザーはオンデマンドでのみストリーミングします。

WolfVision vLink ソフトウェアと大部分のインターネットブラウザでは自動的にストリーミングを始めることができます。ブラウザまたはサードパーティ製アプリケーション（メディア・プレーヤー）でストリーミングがスタートしない場合、STREAMING キー（#45）を使うか、ストリーミングし続ける Continuous モードに変更してください。（この場合、ネットワーク・トラフィックに注意してください）

サードパーティのアプリケーションでストリームを開くには、ネットワーク URL をアドレス・フィールドに入力します。

インターネット Browser、例：http://192.168.0.2

メディア・プレーヤー、例：http://192.168.0.2/stream.sdp

IP アドレスとは、ビジュアライザーの IP アドレスです。（オンスクリーンメニューの Advanced Settings → Ethernet Settings）

ビジュアライザーは、ネットワークに表示中のビデオコンテンツ（ライブ画像、外部 HDMI-IN またはメモリー）と音声（HDMI-In または Line-In）をブロードキャストします。

技術的バックグラウンド：UDP Multicast はブロードキャスト（多くのクライアントが同じビデオストリームを見る）と同じように動作します。Multicast モードでは、接続されたコンピュータの数の如何にかかわらず、帯域幅は常に一定です。ただし、Multicast をサポートするルーターは多くないので、代わりに UDP Unicast が point-to-point 接続に使用できます。（1 クライアントのみ可能）

TCP Singlecast モードでは、それぞれのコンピュータがビジュアライザーに対して個別の接続をしますので、クライアント数が増えると、多くの帯域幅が必要になります。（最大 128 クライアント可能）

音声はサポートされていません。

ヒント：

機能をフルに利用するには、ブラウザを使用する際 JAVA versin7 もしくはそれ以上が必要です。

機能をフルに利用するには、以下のポートが必要です：50915、50913、8800 と 8801

使用するポートと IP アドレスがファイアウォールによってブロックされていないかを確認してください。

いくつかのネットワークルーターは、マルチキャストストリームを転送することができないので注意してください。

ストリーミング配信 - vSolution Connect（Apple iPad 用）

ビジュアライザーは、ネットワーク上での iPad からのストリーミング受信をサポートします。

vSolution Connect アプリを iPad にダウンロードし、ビジュアライザーと同じネットワークに iPad を接続しアプリをスタートさせてください。

次に Connect アイコンを軽くタップし、ビジュアライザーの撮影領域に置いて、iPad に表示される指示に従ってください。iPad 画面が赤/青に点滅することによって同期が完了します。

接続が確立されると、iPad に保存してあるドキュメントをビジュアライザーに送ったり、逆にライブ画像を iPad で受けることができます。

iPad はホワイトボードとして、あるいは画像や動画を保存するために使うこともできます。

iPad からビジュアライザーへの切替えは、リモコンの LIVE キー（#33）を押してください。

再度切替える場合は、STRM キー（#41）を押してください。

注意：vSolution Connect により iPad の録画機能を使用する場合、ビジュアライザーの録画機能は使用できません。

vSolution Connect 使用中は、イーサネットと USB によるストリーミング機能は使用できません。

以下の項目は、上級ユーザ向けです。
オンスクリーンメニュー/オンスクリーンヘルプ

通常の使用においては、メニュー機能の使用や設定変更は必要ありません。操作に慣れるまでは、ここで紹介する操作は行わないでください。

オンスクリーンメニューに入るには MENU キー(#47)を押してください。ビジュアライザーと内蔵カメラの基本設定は、リモコン上の4つの SELECT キー(#25 と#46)と確定キー(#26)を使って行うことができます。

オンスクリーンメニューの内容についてより詳細な情報が必要な場合は、該当する行にカーソルを合わせて?HELP キー(#24)を押してください。その項目に関する詳細な説明がスクリーンに表示されます。元に戻す場合は再度? キーを押してください。

MENU キーを4秒間押すと Extra Menu が表示されます。工場出荷時のセッティング (Factory Reset) を呼び出す場合、解像度や IP アドレスを含めた全てのセッティングをデフォルトに戻します。

ヘルプメニューは、ビジュアライザーのソフトウェア(ファームウェア)と連動しているため、オンスクリーンメニューの機能についての詳細は本取扱説明書に記載しておりません。画面でご確認いただける情報は、その時点での最新のビジュアライザのファームウェアの内容です。

Exposure Settings

露出の設定は画像の輝度 - ゲイン/シャッター/Aperture/画像輝度/Back Light Compensation など - に影響します。

Color Settings

色の設定によってカメラの色再現性 - ホワイトバランスセッティング/カラーモード/Positive Negative など - に影響します。

ヒント:

スクリーン上の画像が明るすぎたり暗すぎた場合や彩度が適切でなければ、オンスクリーンメニューの Color Settings で変更することができます。

手書きの文字をより読み取り易くするために、画像を BLUE に変換することができます。

Output Settings

Detail Settings (シャープさ) の変更と出力解像度を変更することができます。

ヒント:

“Resolution Test”機能を使って、選択した解像度に一時的に10秒間変更することができます。

こうすることで、接続したディスプレイ装置の適合性が簡単にチェックできます。

Preset Control

オンスクリーンメニューのPreset Settingsで、Negative/Blue, Black/White, LightなどPRESETキーに割り当てることができます。加えて、デフォルト設定を呼び出すことができます。

Advanced Settings

このサブメニューで電源投入時の動作、デジタルズーム、オンスクリーンメニューが変更できます。

Ethernet、date/Time、USB Stick設定等がこのメニューに含まれています。

ヒント:

パワー・ダウンモードを“ECO”又は“DEEP”に変更してスタンバイ時の消費電力を節約することができます。

“Device Info”を開くと現在搭載されているファームウェアバージョン、ビジュアライザーの詳細を見る事が出来ます。

デフォルトメニュー設定のリセット

画像に影響する設定はすべて工場出荷時の状態に戻すことができます。他の機器との通信に影響する設定、例えばネットワーク設定や解像度などは変更できません。

ヒント:

特定の1項目をリセットしたいときはその項目を選んだ状態で2秒間?HELPキー(#24)を押してください。

クイック・セットアップ・ガイド

ビジュアライザーに初めてスイッチを入れたとき、自動的に Quick Setup Guide が始まります。このメニューにより、高さ調整、言語、ネットワーク、日付/時刻、音声設定など基本的な設定ができます。なお、このメニューは手動で始めることもできます。

HDMI とRGB出力(#22, #21)は以下の信号フォーマットで出力可能です

- SVGA (4:3 - 800 X 600 pixels)@60Hz
- XGA (4:3 - 1024 x 768 pixels) @60Hz
- SXGA (5:4 - 1280 x 1024 pixels) @60Hz
- UXGA (4:3 - 1600 x 1200 pixels) @ 60Hz
- 720p (16:9 ワイドスクリーン HD - 1280 x 720 pixels) @60Hz
- 1080p (16:9 ワイドスクリーン HD - 1920 x 1080 pixels) @60Hz ネイティブ画像
- WXGA* (16:10 ワイドスクリーン - 1280 x 800 pixels) @60Hz
- WUXGA (16:10 ワイドスクリーン - 1920 x 1200 pixels) @60Hz

初期値は「AUTO/自動解像度認識」モードに設定されています。このモードでは、どの機器がHDMI出力端子(#22)とRGB(#21)に接続されているかをビジュアライザーが継続的に認識し、接続されている各装置に合う最適な出力モードを自動的に設定します。接続されている機器またはケーブルが Plug and Play (プラグアンドプレイ)に対応していない場合は、ビジュアライザーが可能な解像度を見つけることができないので注意してください。ビジュアライザーが可能な解像度を見つけることができない場合には、デフォルトのXGA/60Hzに設定されます。
 (*プラグアンドプレイ互換ケーブルは、DDCをサポートしています。)

「AUTO/自動解像度認識」機能を使用しない場合は、オンスクリーンメニューで出力モードを手動で選択できます。
 (18ページ参照)

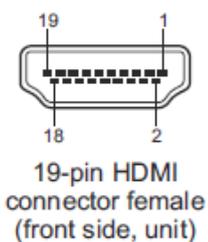
最高の画質を得るには、使用するディスプレイ (LCDまたはDLPプロジェクターやモニター等) のネイティブ解像度に合った出力モードにビジュアライザーを設定してください。

重要：ここでいうプロジェクタまたはモニタのネイティブ解像度とは、(圧縮モードで)表示できる最大解像度ではなく、プロジェクターまたはモニタのプロジェクターのネイティブな解像度のことです。ネイティブな解像度とは、LCDディスプレイやDLPチップの実際のピクセル数のことです。大抵のLCDまたはDLPプロジェクターはネイティブ解像度以上の解像度を表示することができますが、圧縮モードとなり画質が劣ります。

ビジュアライザーの出力モードは、使用するディスプレイ機器のネイティブ解像度よりも高く設定しないでください。接続機器の取扱説明書に従ってください。

アスペクト比がビジュアライザ又はディスプレイのネイティブ解像度にマッチしない場合、ディスプレイの上端と下端が帯状に黒く表示されます。ディスプレイの中には黒い帯を最小にするため画像をズームする機能を持っているものがあります。接続機器の取扱説明書に従ってください。

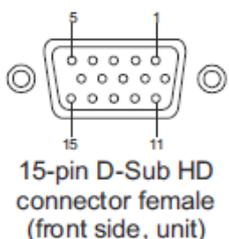
HDMI Port (#22)



1 - T.M.D.S. Data2+	8 - T.M.D.S. Data0 Shield	15 - SCL (I ² C Serial Data Line for DDC)
2 - T.M.D.S. Data2 Shield	9 - T.M.D.S. Data0-	16 - SDA (I ² C Data Line for DDC)
3 - T.M.D.S. Data2-	10 - T.M.D.S. Clock+	17 - DDC Ground
4 - T.M.D.S. Data1+	11 - T.M.D.S. Clock Shield	18 - DC+5V (max. 50mA)
5 - T.M.D.S. Data1 Shield	12 - T.M.D.S. Clock	19 - Hot Plug detect
6 - T.M.D.S. Data1-	13 - Reserved	
7 - T.M.D.S. Data0+	14 - ARC (Audio Return)	

CEC (Consumer Electronic Control), ARC (Audio Return Channel), HEC (HDMI Ethernet Channel)はサポートしていません。

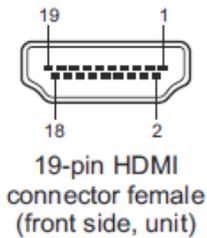
RGB Port (#21)



1 - Analog Red video	6 - Red return	11 - N/C Not connected
2 - Analog Green video	7 - Green return	12 - SDA I ² C data
3 - Analog Blue video	8 - Blue return	13 - HSync Horizontal sync
4 - N/C Not connected	9 - DC+5V max. 50mA)	14 - VSync Vertical sync
5 - GND Ground	10 - GND (VSync, DDC)	15 - SCL I ² C clock

DC+5V are available when Visualizer is fully powered up.

HDMI IN – 外部の入力 (#19 と #20)



1 - T.M.D.S. Data2+	8 - T.M.D.S. Data0 Shield	15 - SCL (I ² C Serial Data Line for DDC)
2 - T.M.D.S. Data2 Shield	9 - T.M.D.S. Data0-	16 - SDA (I ² C Data Line for DDC)
3 - T.M.D.S. Data2-	10 - T.M.D.S. Clock+	17 - DDC Ground
4 - T.M.D.S. Data1+	11 - T.M.D.S. Clock Shield	18 - DC+5V (max. 50mA)
5 - T.M.D.S. Data1 Shield	12 - T.M.D.S. Clock	19 - Hot Plug detect
6 - T.M.D.S. Data1-	13 - Reserved	
7 - T.M.D.S. Data0+	14 - ARC (Audio Return)	

CEC (Consumer Electronic Control), ARC (Audio Return Channel), HEC (HDMI Ethernet Channel)はサポートされていません。

コンピュータはビジュアライザーのHDMI入力端子1/2(#19と#20)に接続してください。
EXTERN1/2キー(#39)を押すことにより、ビジュアライザーは外部入力の信号を画面に表示します。
ビジュアライザー上のライブ画像に戻るにはリモコンのLIVEキー(#33)を押して下さい。
ビジュアライザーにはA/Dコンバーターが内蔵されているのでコンピュータからアナログRGBで入ってきた信号をデジタル化し、選択した信号形式でHDMI,RGB端子から出力することができます。

入力可能な信号：VGA (640 x 480 @60Hz) から WUXGA (1920 x 1200 @60Hz) まで、その間の幾つかの解像度とリフレッシュレートを含む。好ましい解像度：1080p (1920 x 1080 @60Hz)
入力の解像度によっては、ブラックバーは可能です。

次のデータが提供されます：

Plug & Play Monitor VERSA DDC
Monitor name: "WolfVision"
Video Input Definition: digital signal
Vertical range limits:50Hz - 60Hz
Horizontal range limits:20kHz - 75kHz
Maximum pixel clock: 170MHz
Gamma: 2.2
Preferred resolution(推奨解像度): 1080p (1920 x 1080) @60Hz

HDMI コンテンツ保護HDCP

ビジュアライザーはHDCP (High-bandwidth Digital Content Protection)をサポートしていません。
HDMI 入力の暗号化された信号はブロックされ、ビジュアライザーは黒い画像を出力するだけになります。

HDCP独自の技術はハリウッドのHD映画やペイ・パー・ビュー伝送のような保護されたコンテンツに使用されており、保護されていないコンテンツには影響しません。セキュリティ・システムをバイパスする事は法律上認められません。
著作権の所有者は Digital Millennium Copyright Act (DCMA)です。

外部赤外線 (IR) センサー(オプション)

部屋の状況によっては、シーリングビジュアライザーの内蔵赤外線レシーバーでは十分でない場合があります。
この場合、オプションの外部赤外線レシーバーを IR センサー・プラグ (#12) に接続し、ユーザーが遠隔操作ができるような場所、天井 (または部屋) などに IR センサーを配置してください。

Audio Line IN と Line Out (#17 と#18)



ビジュアライザーは、異なる音声源と異なる音声出力を取り扱うことができます。オンスクリーンメニューの Advanced Settings → Audio Settings でご希望の設定を選んでください。

Line In : max. $1V_{RMS}@10k\Omega$ (stereo, unstable)

Line Out : max. $1V_{RMS}@10k\Omega$ (stereo, unbalanced; max. transmission rate 1:1)

音声出力のボリュームは、10% (HDMI オーディオにも作用) のステップで減少します。

ヒント：グラウンドループによるハムノイズが発生する場合、据付け環境を確認ください。

改善しない場合は、グラウンドループアイソレーターLine In と Line Out の両方に入れてください。

Transmission range : 20Hz~20kHz at $\pm 0.3\text{dB}$ /300Hz~10kHz at $\pm 0.1\text{dB}$

Transmission ratio : 1:1

USBポート (Storage Device へ) (#15)

USBポート (クライアント用) は、画像または動画保存のためのメモリー拡張用として使うことができます。(14 ページ、15 ページ参照) また、それはメニュー設定、ファームウェアアップデートに使うことができます。500mA が最大電力消費ですので、注意してください。

USBスティックへのビジュアライザーの設定保存

ビジュアライザーはメニュー設定及び現在の設定をUSBスティックにXMLファイルで保存することができます。ご希望の設定に変更した後、USBスティックに保存します (On-Screen MenuのAdvanced Settings → USB Stick Settings) XMLファイルが保存されたUSBスティックを接続すると、スクリーン上にメッセージが現れます。USBスティックを抜くと、以前の設定が再現されます。ビジュアライザーの設定は On-Screen Menu で変更することができます。(18 ページ参照)

USBポート (コンピュータへ) (#14)

USB デバイスポートは、ビジュアライザーとコンピュータ間の直接の接続に使用することができます。

PTP 機能 (Picture Transfer Protocol, version1.0)

PTP 機能は、ファイルブラウザーを用いて内蔵メモリーにアクセスする機能があります。追加デバイスドライバーは、必要ありません。(PC のオペレーティングシステムに依存する)。

UVC ドライバ (Universal Video Class, version1.0)

ビジュアライザーは、UVC 互換なので webcam として使うことができます。追加デバイスドライバーは必要ありません。(PC のオペレーティングシステムに依存する)

ビデオキャプチャドライバー (スタンドアロン、vSolution Link 機能に含む)

ビデオキャプチャドライバーは、WIA (Windows Image Acquisition) 互換のため、Adobe Photoshop® のようなグラフィックスソフトやインタラクティブホワイトボードと組み合わせて使うことができます。

以下から最新版ビデオキャプチャドライバーをダウンロードしてください: www.wolfvision.com/support

WolfVision vSolution Link

vSolution Link を使うことでビジュアライザーをコントロールし、立体物のスキャナーとして使う事ができます。JPG、TIF または BMP フォーマットの画像を瞬時に取得することができます。さらに、動画ファイルを保存し、ビジュアライザーの稼働状況を管理することもできます。

保存された画像は、EXIF データ (JPG または TIFF フォーマットのみ利用可) を含んでいます。

含んでいるデータは以下の通りです:

製造メーカー = WolfVision

ビジュアライザーモデル (シリアル番号を含む) = (例) VZ-C6 (01041472)

ファームウェアバージョン = (例) V1.33a

生成された日付、時間 = (例) 2014-03-07 11:06:29、(yyyy-mm-dd hh : mm : ss)

以下から最新版 vSolution Link をダウンロードしてください: www.wolfvision.com/support

イーサネット/LANポート (#13)

10Base-T/100Base-TX

LANポートによりビジュアライザーを内部コンピュータネットワークに組み込み、IPアドレス (WAN) を割り当てればインターネット経由で通信することができます。

ネットワーク管理者は、LANポートを使って手元のデスクトップコンピュータから全てのビジュアライザーを管理することができます。

ビジュアライザーのLANポートを使ってできるアプリケーションは、ますます増えています。

ビジュアライザーの制御、静止画像取得、ライブビデオストリーム、ファームウェアアップデート、調整、メニュー設定およびメンテナンス目的等です。

対応しているプロトコルは、TCP/IP、IGMP、UDPおよびARPです。

対応している (検証済み) のインターネットブラウザは、Internet Explorer、Firefox、ChromeおよびSafariです。

デフォルトでは、DHCPが有効になっておりサーバーから提供されるネットワーク設定を自動的に受けられます。

WolfVision vSolution Link では FullHD (1080p)まで可能で、ブラウザ使用時は HD(720 p)です。

許可されていないユーザーが、ネットワーク経由でビジュアライザーへログインする事を防止するために、administratorとuser passwordを設定することができます。LAN経由でパスワード転送は、Md5で暗号化します。

「How To Use the visualizer in the Network」をご参照ください。

ルームマネジメントシステム

LAN ポート (#13) と USB デバイスポート (#14) は、会議室を統合するルームコントロールシステムのような外部装置経由でビジュアライザーを制御するのに用いることができます。
シリアルプロトコルに関しては、www.wolfvision.com/support でご確認ください。

ビジュアライザーのネットワーク接続

有線接続

ビジュアライザーを既存のネットワークに接続してください。
利用可能な DHCP サーバーがあれば、ビジュアライザーは DHCP 情報をもとに IP アドレスを設定します。
利用可能な DHCP サーバーがない場合、IP Address、Subnet Mask、Gateway、Nameserver をマニュアル入力し有効な設定にしてください。

セキュリティ

ビジュアライザーのイーサネット機能は制限可能で、アクセスはパスワードで保護することができます。
オンスクリーンメニューの Advanced Settings → Ethernet Settings の Security Settings を選択してください。
設定を変更しイーサネット機能を制限するために、有効な管理者パスワード (Admin Password) を入力してください。この管理者パスワードは、あとから変更することができます。
パスワード変更は注意してください！ WolfVision 社だけが管理者パスワードをリセットすることができます！
Admin と Guest のデフォルトパスワードは、Password です。

FTP クライアント

ビジュアライザーは、ビデオを共有するために FTP クライアントとしての設定することができます。
イーサネット接続 (有線またはワイヤレス) の準備をし、オンスクリーンメニューの Advanced Settings → Ethernet Settings の FTP Settings を選択してください。
ここで Server IP Address、Username と Password を割り当てることができます。
上記の設定が終了したら、Interval を選択し FTP サーバへの画像コンテンツ送信間隔を設定します。
Transfer は、動画ファイルを FTP サーバに送信確認した後ローカルファイルを自動的に削除または保持するように設定できます。

メンテナンス

ヒューズ交換

電源コード（#9）を抜いてからヒューズを交換してください！

ヒューズ（#11）は、電源ソケットの小さなふたの後ろにあります。

ドライバー等で簡単に開けることができます。ソケットを取り外して、慎重にヒューズを交換し、ソケットをソケットホルダーへきちんと戻してください。

ヒューズタイプ：T0.8A これ以外のものは使用しないでください！

新しいヒューズに交換してもまたすぐに切れてしまう場合は、販売店にご連絡ください。

クリーニング

本体： 柔らかい布などでそっと拭いて汚れを落としてください。

ガラス面： けば立ちのない柔らかい布（ティッシュペーパーは使用しないでください。）でやさしく拭いて汚れを落としてください。軽く息を吹きかけてレンズを湿らせてから柔らかい布で拭き取ります。もしくは専用のクリーナーを使用し、それ以外は使用しないでください。

決してアセトンやベンジンなどの強力なクリーナーは使わないでください！

表面を傷めたり、反射防止コーティングが損なわれます。

ユニット内側のレンズやガラスの埃が画質に影響していないか注意してください。

警告：

内部の光学パーツをクリーニングする場合、ユニットを開かなければなりません！
ユニットを開ける時は、WolfVisionまたは認定のサービス担当にご連絡ください！
ユニットを開けた場合、調整が必要になる場合があります。

ファームウェアのアップグレード

ビジュアライザー（スクリーン上のオンスクリーンHELPを含む）のソフトウェア（ファームウェア）は簡単に最新バージョンにアップグレードできます。ファームウェアのアップグレードは、USB、LANまたはUSBスティックで行うことができます。

最新のファームウェアファイルは、www.wolfvision.com/supportから無償でダウンロードできます。

USB、LAN経由のファームウェアアップデートは、vSolution Link by WolfVisionソフトウェアで行います。

USBスティックの場合は、フォルダ（root:WOLFVISION）にファームウェアファイルを置く必要があります。

（デフォルトフォルダは、オンスクリーンメニューのAdvanced Settings → USB Settingsで変更することができます。）

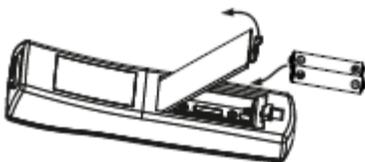
別の方法として、ビジュアライザーがインターネットに接続しており、nameserver IPアドレス（Advanced Settings → Ethernet Settings）が割り当てられている場合、ファームウェアのアップデートは、オンスクリーンメニュー（Advanced Settings → Device Info）で開始することができます。

Device Info 内のCheck For FW Updateを選択することにより、ビジュアライザーは、WolfVisionサーバに最新のファームウェアファイルがあるか否かを確認します。

オンスクリーンメニューに従って、アップデートを開始してください。

赤外線リモートコントローラ

赤外線リモコンは、ビジュアライザーから一定の距離内でのみ使用できます。ビジュアライザーとリモコンの間に障害物があったり、リモコンの電池が減っている場合には、十分に作動しないことがあります。



至近距離からでなければうまく作動しなかったり、まったく使えなくなった場合は、電池を交換してください。

リモコンの背面のカバーを開け、新しい1.5Vの単三電池2個と交換してください。その際、電池の極性を確認してください。

バッテリーの極性をチェックしてください！

注意

電池が誤ったタイプと交換した場合、爆発の危険があります。

使い古した電池は指示に従い処分してください。電池をリサイクルしてください。



◆ 便利メモ（お買い上げ時にご記入下さい） ◆

お買い上げ 年 月 日		品 番	
		製造番号	
お買い上げ の販売店名	TEL () FAX ()		

※ 弊社製品保証につきまして

- 弊社では、製品の製造番号にて保証期間を管理しておりますため、製品保証書を発行致しておりません。
- 保証期間は、製品出荷日より5年間有効です。
- お問い合わせの際には、必ずモデル名と製造番号をお知らせ下さい。

連絡先:

日本国内:

株式会社ヴォルフビジョン

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-30-15 VORT高田馬場I 9F

Tel. 03-6233-9465, Fax: 03-6233-9466, E-mail: wolfvision.japan@wolfvision.com

URL: www.wolfvision.com/japanese/

製造元 / 本社:

WolfVision GmbH, VlbG. Oberes Ried 14, A-6833 Klaus / AUSTRIA,

Tel. ++43-5523-52250, Fax. ++43-5523-52249, E-Mail: wolfvision@wolfvision.com